

様式3 実践事例

肝付町立内之浦小学校 第1学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるように活動内容を明確にした。
- ② 児童の話合い活動を活性化させるために、ICT機器を適切に活用できるように工夫した。

1 主題名 「みんなで つかう もの」[C(12)規則の尊重]

(1) 教材名 「そろって いるけど」(日本文教出版「生きる力1」)

(2) 本時のねらい

みんなで使う物は、誰かが整えるではなく、使った人みんなが整えなければならないことを理解し、みんなが使う場所や物を大切にしようとする心情を育てる。

2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	<p>1 写真から、本時の主題について知る。</p> <p>2 教材名から、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなで使うものは、みんなが整えなければならないのは、どうしてだろうか。</p> </div>	(分) 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の主題を確認するため、きちんとそろっているスリッパの写真から、みんなで使う物について考えることを知らせる。 ○ 教材名から自分の実態について気付かせるため、写真のようにスリッパをそろえられているか問いかける。 ○ しっかりできていない自分を変えるために大切なことは何かに触れ、課題につなげる。
展開	<p>3 教材を読んで考え、話し合う。</p> <p>4 なぜ、みんなで使う物は、みんなが整えなければならないのか話し合い、大切にしたい気持ちをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちよく使えるから ○ みんなのためになるから </div>	14 14	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の内容が簡潔に理解できるようにするため、挿絵は短冊を掲示して、内容を確認する。 【デジタル教科書の活用】 ○ ロールプレイングにおいて、それぞれの立場の気持ちを表現できるようにするため、ロイロノートを活用して、表情カードを提示させるようにする。 【iPad・ロイロノートの活用】
終末	<p>5 身の回りの公共物を利用するとき、気を付けたいことを確かめる。</p> <p>6 本時の学習の振り返りをする。</p>	5 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで使う物や場所を大切にすることの大切さについて考えが深められるよう、学校内で乱れがちな物や場所の写真を提示する。 【電子黒板の利用】

みんなでつかうもの

すりっぱの写真

そろって いるけど

みんなで使うものは みんなが整えなければ
ならないのは、どうしてだろうか。

○はっとしたとき
けんじくんがそろえてくれた。
けんじくんばかりにしてもらっていた。
自分たちはしていなかった。

○はなしあったこと
けんじくんをみならいたい。
使ったものは、そのひとがかたづけなければい。
みんなでしなくてはいけない。

○につこりえがおになったとき
ほめられた。
じぶんたちでしっかりできた。
さもちいな。
うれしいな。

○気持ちよく使えるから
みんなのためになるから
かたづけると気持ちいいから

教室のゴミ
の写真

水道の写真

本の写真

トイレの
写真

みんなで使う物や場所を大切に
する大切さについて考えが深めら
れるよう、学校内で乱れがちな物
や場所の写真を提示する。

教材の内容が簡潔に理解できるよ
うにするため、挿入教材の内容が簡
潔に理解できるようにするため、挿
絵は短冊を掲示して、内容を確認
する。

17 そろって いるけど

中心発問を活用し、自分の
考えをまとめ
振り返りのと
きに道徳的価
値についてふ
れる。

〈ワークシート〉



〈ICT機器の活用〉

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 児童の実態を踏まえためあてを設定したり、ロールプレイング後に考える視点を与えたりしたことで多面的な考えを引き出すことができた。
- イ 児童が iPad を操作しながら、表情カードの違いから自分の考えを発表することができていた。ICT 機器を利用した対話活動の充実を図ることができた。
- ウ 道徳ノートの活用が進み、学習の振り返りに資することができた。

(2) 課題

- ア 主題について、児童の意識を向けさせるまでの発問の在り方を考えていきたい。
- イ 児童の意見や考えを交流させるための教師の発問や問い掛けの言葉が不十分だった。教師の発問・問い掛けの言葉を分類したり、増やしたりしていきたい。